

平和への道

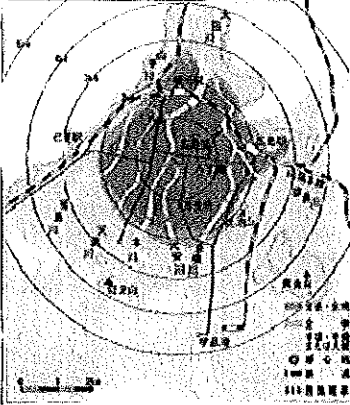
原爆は原爆が投下された瞬間

一九四五年（昭和二十年）八月六日午前八時十五分、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けた。それによる被害はとてつもなく大きいため、街を破壊し、多くの人命を奪った。一九四五年までには原爆が原因で七千七百人は約十四万人といわれています。なぜ広島に原爆が投下されることになったのでしょうか。

アメリカは、原爆の威力を正確に測定できるよう、投下目標を直径三マイル（約四・八キロメートル）以上の市街地を持つ都市の中から選びました。原爆の投下まで町並みを残すため、五月二十八日に目標都市への空襲を禁止しました。そして、七月二十五日には目標都市の広島、小倉、新潟、長崎のいずれかに対する投下命令を下しました。八月二日、広島を第一目標とする命令が出されました。それは広島に連合軍兵士の捕虜收容所がないと思われていたためです。原爆は投下目標を目で確認して投下することになっていました。八月六日、広島は暗れていて、それが可能だったため、原爆が投下されたのです。

原爆は投下された瞬間の被害

原爆は市街地のほぼ中央上空で爆発しました。爆心地から三キロメートルの範囲内に市内の全建物の約八十五パーセントがあったことから、上の回をみてわかるように、被害は市内の全域におよび、半径二キロメートルまでの地域にあつた家や建物など付全壊、全焼しました。



爆発と同時に爆発の温度は百万度を超え、空中に発生した火球は、

一秒後には最大直径二百八十メートルの大きさとなりました。この火球から四方に放出された熱線は、爆発後百分の一秒から約三秒間の間に強い影響を与え、爆心地周辺の地表面の温度は三千から四千度にも達しました（鉄の溶ける温度は約千五百度）。強烈な熱線により、焼かれた人々は重度の火傷を負い、多くの人が亡くなりました。火傷は熱線に直接当たっていた部分にのみ生じており、爆心地から三・五キロメートル離れたところでも、素肌の部分に火傷を負いました。また、爆心地から六百メートル以内の屋根瓦は、表面が溶けてぶつぶつ泡状になり、約一・八から二キロメートルでは、人の着ていた衣服や洗濯物に着火し、約二・五キロメートルでは、わら屋根に着火し、炎上しました。樹木への着火も多く、約三・五キロメートル以内では、電柱、樹木、木材などが黒焦げになりました。

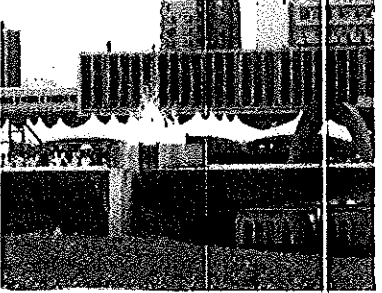
原爆が投下された後の被害

原爆の特徴は、通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出され、それによって、人体に深刻な障害が及ぼされたことです。放射線は、被爆直後の急性障害（発熱、吐きけ、下痢など）だけでなく、その後長期間にわたってさまざまな障害を引き起こしてまわりました。現在もなお被害者の健康を脅かしています。

一九四六年（昭和二十一年）初めごろから火傷が治ったあとが盛り上がる、いわゆるケロイド症状が現れました。また被爆は、胎児にもいろいろな影響を及ぼしました。死産する例もありましたが、無事に生まれてきた子どもも、乳児期を過ぎて他の子どもに比べると死亡率が高くなっています。中には、頭蓋が著しく小さく、知的障害を併う小頭症が見受けられました。さらに、被爆後五、六年が経過した一九五〇年（昭和二十五年）頃から白血病患者が増加し、一九五五年（昭和三十年）頃からは甲状腺ガン、乳ガン、肺ガンなど悪性腫瘍の発生率が高くなり始めました。放射線が年月を経るにつれて、この影響について

ては、未だ十分解明されておらず、調査や研究が現在も続けられています。

平和の灯火



平和の灯火は、広島市の平和記念公園にあります。一九六四年（昭和三十九年）八月一日に建立されました。台座は、手首を合わせた形を表現しており、水を求めてやまなかに犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和への願いがこめられています。この火は、一九六四年（昭和三十九年）八月一日に点火されて以来、燃え続けています。私たちを案内してくれたアドバイザーの方は、核兵器がこの世界からなくなったら、平和の灯火は消えるかもしれないと言っていました。

広島研修を終えて

私は、広島研修でいろいろなことを学びました。原爆が投下されて、焼け野原になった街の写真を見たり、アドバイザーの方の話を聞いたりと、私は心がすごく痛みました。原爆で亡くなった人の泣き声が聞こえてくるようでした。戦争は今も世界中のいたるところで起きています。その戦争で亡くなった人、友達や家族が亡くなつて悲しんだりしている人たちがたくさんいます。私一人だけの力では、世界中の戦争が消えることはありません。ですが、広島で起きた原爆のことを自分自身がより深く知り、たくさんの人にそのことを知ってもらおうことで、「戦争はやめてほしい」といいます。そして、世界中の多くの人々が思うことを戦争は起きなくならないです。平和への道は、まだまだ遠いかも知れませんが、私は広島で起きた出来事をたくさんの人に伝えていくつもりです。

原爆がもたらした恐怖

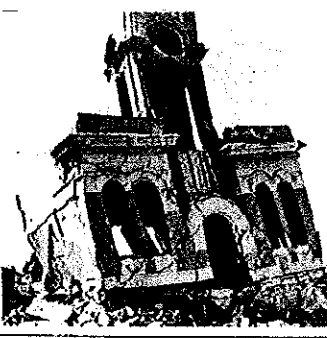
熱線による被害

爆発と同時に爆発点の温度は百万度を超え、空中に発生した火球は、一秒後には最大直径二百八十メートルの大きさをとった。この火球から四方に放出された熱線は、爆発後百分の一秒から約三秒間の地上に強い影響を与えた。爆心地周辺の地表面の温度は鉄の溶ける温度の二、三倍の三千四百度にも達した。強烈な熱線により、焼かれた人々は重度の火傷を負い、多くの人が亡くなった。火傷は熱線に直接面した部分にだけ生じており、爆心地から三・五キロメートル離れたところでも、素肌の部分には火傷を負った。

爆心地からの距離と被害
 約一・八～二キロメートル：人の着ていた衣服や洗濯物に着火し、炎上
 約二・五キロメートル：電柱、樹木、木材などが黒焦げになった。

爆風による被害

原爆の爆発からの瞬間、爆発点は数十万気圧という超高压となり、周りの空気が急激に膨張して爆風となった。爆心地から半径二キロメートルまでの地域では、崩壊はまぬがれた場合でも、窓枠や内部の家具類も吹き飛ばすなど、大きな被害を出した。爆風によって、歩道が吹き上げられたり、ビルが押しつぶされ傾いたり、水面からは返りなどの被害も出している。



放射線による被害

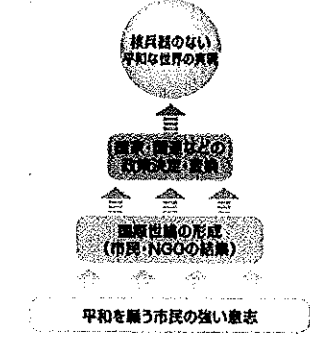
原爆の特徴は、通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出されたことだ。放射線は細胞を破壊し、人体の形を崩壊させる。放射線による被害は、爆心地からの距離や入る物の有無によらず、その程度が大きく異なる。爆後、放射線の影響を受け、その多くは数日のうちに死亡した。また、外傷が全くなかったと思われ、死した例も多々ある。さらに原爆は爆発後、長時間にわたって人体に強く影響を及ぼす残留放射線（核分裂で生まれた放射性物質や分裂した核が反応を起して生まれた放射性物質）が放出されたことでも、土やがれきを構成する原子の放射線（放射能）を地上に残した。このため、肉類や同僚などを食べた人々の中には、直接放射線のため、同じように発病したりして、死亡する人もいた。また、爆発により巻き上げられた粉じんなどを含んだ黒い雨が、広島市とその周辺の地域などに降り、この雨の中には強い放射能が含まれており、この後三か月にもわたって下痢をした。

放射線の影響が大きい体の場所
 ・細胞が活発に分れていたりする部分（骨髄、腸の粘膜、生殖器など）
 ・放射線を全身に七千ミリシーベルト以上を一度にうけると、ほぼ全員が死亡する。
 ・放射線は、爆発直後の急性障害（発熱、嘔吐、下痢など）だけでなく、その後も長期にわたってさまざまな障害を引き起こし、被爆者の健康を現在もなお脅かし続けている。

一九四六年（昭和二十一年）初めごろ
 ・火傷が治らないうちが盛り上がる、いちやうぐ口イビ症状が現れる。
 ・一九五〇年（昭和二十五年）ごろ
 ・白血病患者が増加する。

広島研修を終えて

私は広島研修で、原爆の恐ろしさや原爆による被害など、たくさん学んだ。原爆や戦争だけでなく、平和についてのことをたくさん知ることができた。悲しみをひきおこした原爆は、残念なこと人間が落とすもので、言っている。この言葉は私の心に強く残った。人間がやることは人間が止められるというのには、私たちが身近におこる些細な喧嘩にも関係して、私たちが思っている。喧嘩をしたこと、なにも思っていない。それは、戦争も同じことだ。人々が嫌な気持ちになり、辛い思いをして、射線による。広島に落ちた原爆のように、放り込まれた。一九四五年八月六日午前八時十五分、広島に落ちた。薄や希望まで、もうは、これからの未来を核兵器のない平和な世界に作るために、一人一人が平和を願う。核兵器をなくすという強い意志をもつことが第一歩になるのではないかと思う。



戦艦大和の秘密

戦艦大和の建造

ワシントン、ロンドン軍縮条約で、日本は十年以上も新しい戦艦を建造することができずせん。このことは戦艦を建造する技術や能力維持の面で、大打撃と考えられ、た。そこで日本海軍は、昭和九(一九三四)年軍縮条約の効力がなくなるを見越して、すぐれた造船技術を集めた史上最大最強の戦艦「大和」を計画しました。

大和の技術

「大和」は、アメリカの「ワシントン」に對し、日本の最新技術の集大成と言えらるものでした。その技術は戦後日本の復興と高度成長を支え、現代にも受けつがれていきます。

球状艦首

艦首の水線下に球状の突起をつけることで、速力二十七ノット(時速五十キロ)で、8%以上の速がつかせる抵抗を減らすことができた。現在も、世界の大型タンカーから漁船に至るまで幅広く利用されています。

精密光学機器

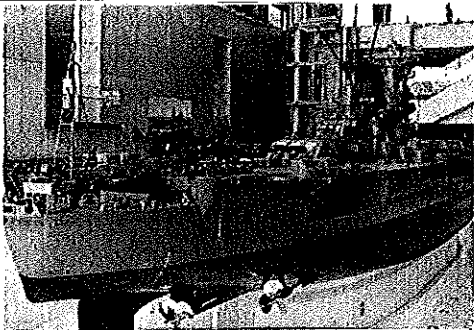
目標までの距離を測る「十五メートル測距儀」は、世界一の大きさと性能をも、ていました。こうした技術は、戦後、カメラなどの精密光学機器に大きな影響をあたえ、日本の精密光学機器産業を世界有数のものに育て上げました。

弱電技術

「大和」は士官室と一部の兵員室を冷暖房が使用されており、夏でも27度くらいに気温が保たれ、「大和ホテル」とも言われていました。

大和の最期

昭和二十(一九四五)年四月五日、戦艦「大和」は沖繩海上特攻の命令が下ります。護衛する航空機もない「大和」は、アメリカ軍艦の第二艦隊約七千二百名は、アメリカ軍が上陸した沖繩へと向かいます。昭和二十(一九四五)年四月六日、沖繩に向けて徳山と出航した「大和」以下第二艦隊は翌七日、九州南西沖の海上においてアメリカ海軍空母機多数の攻撃を受けました。「大和」は応戦の末、多数の魚雷、爆弾の命中により、十四時二十三分に沈没しました。乗組員三千三百三十二名、うち生存者は二百七十六名。三千五十六名の尊い命が失われました。「大和」は現在も、水深三百五十五メートルの海底に眠っています。



前進歩のない者は決して勝たない、負けて目ざめることが最上の道だ。日本は進歩というものを軽視して過ぎた。私的な潔癖や義理にこだわって、真の進歩を忘れていた。敗れて目覚める、それ以外にどうして日本が救われるか。今日覚めずしていつ救われるか。俺たちはその先導にならなければならない。日本の新生にさきかけて散る。まさに本望じゃないか。

これは、戦艦「大和」の副砲撃指揮官として沖繩特攻作戦に参加し、戦死した、白濱惣大尉の言葉です。沖繩海上特攻作戦の意義について、死の間で「特攻で死ぬことに意味があるのか」と大論争になり乱闘まで起きました。たそうです。しかし白濱大尉のこの言葉が、不安な乗組員の心に響いたのでした。

乗組員の手紙

「両親様、お元気でお暮らしの事でしょうね。私も元気で母港に入港いたしました。いよいよ十九日に出港し、〇〇へ入港することになりました。二度も電報を打つて誠にすいませんでした。今度は無事に帰れるかどうか分かりませんが、一筆書上します。

軍人、一度戦争に出たら、命はないものと同じです。私も、死んだ後に迷惑をかけることのないよう、身辺整理はしておきましたから、私の死の知らせが届いた時は、どうか悲しまず、気をたしかに持って、私の遺骨を持って、行ってください。これが私の頼みです。では、さようなら。この遺書は、戦艦「大和」に海軍一等兵曹、一等主砲塔員として乗艦、沖繩海上特攻に参加し、戦死した名村利雄さんが両親に向けて書いたものです。その当時、名村さんは22歳でした。

広島研修を終えて

僕は、二日間の広島研修を終えて、あらためて戦争はこれいなのという感じがかりました。大和とミッドアムに行くと、戦艦大和の大きさと、技術のすばやかさがよくわかりました。その戦艦大和が、かすめられるくらいなので、よほどはげしい戦いだ、たんだなという感じがよくわかりました。一日目の昼飯は、た弁当を食べて、戦争のときは、こんなにも少ない量でかまさんしなければなりません。たという感じが実感しました。毎日毎日こんな弁当を、たら、僕ならイヤにな、ていたと思います。この二日間、知らないことを知れたり、知っていたことでも、よく知れたり、本音にいい体験をしたと思います。この先、戦争を絶対にやりたくはないという気持ちも、と深くなりました。戦艦大和の乗組員は、た海軍一等兵曹の名村利雄さんの手紙を見て、自分が死ぬというか、てするのには戦争に行かなくて自分ならという感じがよくわかりました。自分なら、絶対に行かないと思ひました。

へ広島への原爆投下

第二次世界大戦へ太平洋戦争へ末期の一九四五...

へ体に刻まれたもの

原子爆弾による放射線は、被爆直後の急性障害...



へ日本と対戦した国々は...

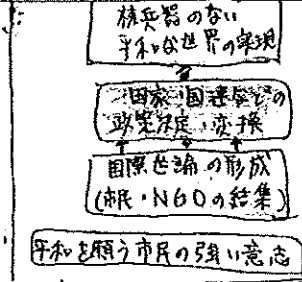
広島、長崎に原爆が投下されたことについて、物...

へ戦争による代償

原爆は、人々物に大きな被害を与えただけではなく...

へ平和な世界へ

被兵器の廃絶は、それ以外の国家にだけ求めら...



へ心相に

平和公園や資料館など、戦争に関する場所に行...

原爆投下のその後

八月二十日、広島に原子爆弾が投下された。原爆投下直後、兵市吉城の砲台より東郷副官の遺骸を見つけた。遺骸について記した西日電。海軍技術大尉手記の一節です。

「本日は、淡い夕色を帯びたあどやかな景色、朝日も反射してたく遠しく爽やかな。内からめく山のようなキノコ状に成り、驚くべき高速度で落下して空に上りつづつた。

この一節を読んで、ものすごい速さで空高くノコ雲ができたことが分りました。このキノコ雲は、原爆投下直後、兵市吉城の砲台より東郷副官の遺骸を見つけた。遺骸について記した西日電。海軍技術大尉手記の一節です。

一方で呉鎮守府は、呉海軍病院など組織した救護隊、救護隊を派遣しました。また多くの呉市民も広島市に入り、救護、救援活動を行いました。

そして、八月九日に長崎に原子爆弾が投下された。日本は八月十五日、ポツダム宣言を無条件で受け入れ、明治二十七年からはいす、太平洋戦争は幕をおろしました。

原爆投下のその後

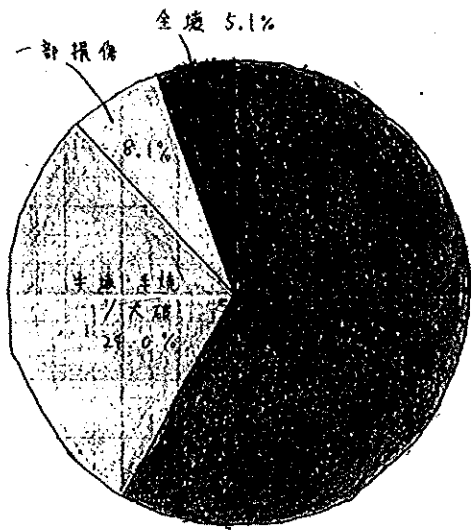
原爆投下後は、大正四年に広島県の特産品の販路促進を図る拠点とすることを目的として建てた「広島県特産品販路促進館」という名称でしたが、その後、「広島県立特産品展示館」として改称された。この展示館は、県の特産品の展示・販売を行うほか、美納展や博覧会など各種催し場の会場として親しまれてきた。しかし、戦争が激しくなった昭和十

九年三月には産業奨励館として、の業務が廃止された。その後、国本木材株式会社、四国土木建築業や広島県立研究所として使用士化していった。

原爆投下後は、中ほどに人々は全買ひくつたりと大破、全壊し、原爆投下後は一部壊れりました。しかし、原爆投下後は一部壊れりました。しかし、原爆投下後は一部壊れりました。しかし、原爆投下後は一部壊れりました。

「広島市は、原爆投下後は一部壊れりました。」

「広島市は、原爆投下後は一部壊れりました。」



原爆による建物の損壊



原爆ドーム

広島市には市民や軍人も合わせて約三十五万人が住んでおりました。現在でも、原爆で亡くなった人は、さりとて分かっていません。でも、一日の食糧に「おにぎり」が主で、おにぎりが出ました。おにぎりは、おにぎりの切り干し大根と小魚、それにおにぎりの増ししたおにぎりです。とても栄養が豊富で、毎日おにぎりが食べられていました。おにぎりのおにぎりを食べていました。

おにぎりのおにぎりを食べていました。おにぎりのおにぎりを食べていました。おにぎりのおにぎりを食べていました。おにぎりのおにぎりを食べていました。おにぎりのおにぎりを食べていました。

原爆について

〈広島に投下された原爆〉

一九四五年八月六日、午前八時十五分に広島に原爆が投下されました。原爆は、爆心地の島病院の上空約六百メートルの地点で爆発し、活気あふれる広島市の街を一瞬にして破壊しました。これにより、多くの人命が奪われ、七十一年た、今でも、原爆による後遺症で多くの人が苦しんでいます。

〈なぜ広島に原爆が!?〉

皆さんは、原爆はなぜ広島と長崎に投下されたのかと考えたことはありませんか。そして、原爆はなぜあれほど絶望的な被害を生んでしまったのか。

私はこのような疑問をもつたことから、これについてまとめていきたいと思ひます。

広島、長崎に原爆が投下された理由、それは、たゞその市の市民が働いており、軍需工場が近くにあり、当初は、東京・名古屋・大阪などといつても、当初は、東京・名古屋・大阪などといつても、大都會も原爆投下の候補に選ばれていました。たゞ、大都會と歴史的文化遺産の多い京都は、候補からはずされました。こうして、原爆投下の最終候補地は、広島、小倉、長崎の三つに絞りました。

しかし、小倉に原爆が投下されるはずだ、たゞ八月九日、小倉の上空は、分厚い雲がおおつており、視界が遮られたため、見事に長崎へと投下されました。

八月九日、このように、八月六日、八月九日に天候のよか、広島と長崎に原爆が投下されたのでした。

つづいて、原爆があれほど絶望的な被害を生んでしまふ理由、それは、原爆の構造にあるのであります。原爆の原理は、物質を構成している原子核の核分裂による反応を利用しています。そうすると、爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ放射されることにも、周囲の空気が膨張して超高压の爆風となり、熱線・爆風・放射線、これら三つ



建設中の被害は、建物の約八十五パーセントが破壊され、残存した建物の九十九パーセント以上が破壊、または焼失してしまふ。たゞのことで、

〈原爆による被害〉

原爆投下前の広島市の町を皆さんは知っていますか。そこは、劇場やカフェ、料理屋などが二百二十軒あまり立ち並び、並ぶ並ぶ繁華街だ。たゞその繁華街、その活気あふれる街並みは原爆により、形もなくなり破壊されてしまいました。その理由、原爆が市街地のほぼ中央上空で爆発したこと、爆心地から二キロメートルの範囲内に市内の全建物の約八十五パーセントが破壊されたこと、これら二つのことから、被害は市内の全域に及び、焼失してしまふ。たゞのことで、

〈黒い雨とは〉

建物の被害は、建物の約八十五パーセントが破壊され、残存した建物の九十九パーセント以上が破壊、または焼失してしまふ。たゞのことで、

すさまじいもので、被害は、建物の約八十五パーセントが破壊され、残存した建物の九十九パーセント以上が破壊、または焼失してしまふ。たゞのことで、

被害は、建物の約八十五パーセントが破壊され、残存した建物の九十九パーセント以上が破壊、または焼失してしまふ。たゞのことで、

〈広島研修をおえて〉

私は、平和記念資料館の資料や、原爆ドームを目の当たりにし、原爆がもたらした絶望的な被害に言葉を失いました。たゞ一つの原爆が一瞬にして何万人もの人命を奪い、また、戦後原爆の後遺症で多くの人が苦しんでいます。

原爆の元となつて、いる原子力は、正しく使えば私たちの暮らしを豊かにする、電気の源になり得る。しかし、このように、たゞのことで、

私は、この研修を通じて、戦争のない平和な世界のなかで、同時に、戦争から復興した平和で豊かな今、それを支えているのは、私たち十代の若者なりだということも身をもつて感じました。

世界では、今もなお戦争が続いている国は、たゞのことで、

世界では、今もなお戦争が続いている国は、たゞのことで、

世界では、今もなお戦争が続いている国は、たゞのことで、

ヒロシマ

広島に起きた悲劇

一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分、世界で初めて広島に原爆が投下された。原爆は地上六百メートルで爆発し、その一秒後の火球の大きさは直径二百八十メートルまでふくらみました。街はほとんど破壊され、多くの人の生命が奪われました。多くの方が火傷を受け、人々も心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者が今もなお苦しんでいます。

原子爆弾による被害

当時広島市には、市民軍人などを合わせて約三十五万人がいたと推定されています。原爆により、死亡した人の数については、現在も正確につかめていません。広島市では放射線による急性被害が一応おさまった。一九四五年(昭和二十年)十二月末までに、約十四万人が死亡したと推計されています。原爆の被害は、通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出され、それによって人体に深刻な被害が及ぼされたことなのです。



放射線による被害は、爆心地からの距離や高さによる物の有無によって、その程度が大きく異なる、といえます。爆発後一分以内には放射線が最も濃く、放射線によって、爆心地から約一キロメートル以内の人に、致命的な影響を受け、その多くは数日のうちに

に死亡しました。また外傷が全くなく、燃傷とおもわれた人々も、被爆後数日が経過してから発病して、中には死亡した例も少なくありません。

非難による被害も多くありました。原爆の爆発の瞬間、爆発点は数十万トンという超高温となり、周りの空気が急激に膨張してものすごく強烈な爆風となりました。爆心地から半径二キロメートル以内までの地域では、ほとんどの木造家は倒壊し、鉄筋コンクリート造の建物も、崩壊を免れた場合でも窓枠や内装の家具類も吹き飛ばされ、内部はすべて壊滅するほど、大きな被害を出しました。爆風により、人々は吹き飛ばされ、即死した人、負傷した人、倒壊した建物の下敷きになった人、圧死した人が相次ぎました。その強烈な爆風により、爆心地である、壁の厚さが一メートルもあるとされる島病院も、原爆の破壊力にはなごたまりもなく、わずかに玄関周りの円形窓と円柱だけが残っています。

原爆が市街地のほぼ中央上空で爆発したことに、爆心地から三キロメートルの範囲内に市内の全建物の約十五パーセントが、壊れたことになり、被害は市内の全域におよび、建物の九十パーセント以上が破壊、または壊滅をされています。

リトルボーイ

このような被害をもたらした原爆は「リトルボーイ」と呼ばれます。この原爆は、核分裂物質としてウラン二三五が使われ、これを臨界量より少し少ない二つの塊に分けておき、爆薬を練って塊をぶつけ合わせることで、一瞬のうちに臨界量以上になるように造られました。臨界量以上に達すると、百万分の一秒という極めて短い時間に核分裂連鎖反応が起こり膨大なエネルギーが一瞬間に放出されます。爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が放出されるときともに、周囲の空気が急激に膨張し、強

烈な爆風となりました。そのエネルギーは、TNT火薬(高性能火薬)に換算すると、約一百万トンに相当すると考えられています。

広島研修を終えて

私は広島研修に行き、戦争はたくさんの人々を苦しめ、お水だけ悲しいものかを知るのとかができました。平成という時代に生まれ、戦争とは無縁な世界で生きてきた何も知らない私がいろいろなことを学べて平和について深く考えることができた。二日間になつたと思います。

焼け焦げた制服や残った皮膚、家族へ書かれた遺書などを自分の目で見て、読んで、本心に悲愴なものだと思いました。

私は今、美味しいご飯が食べられて着ている服が着れて、毎日笑って幸せで、この生活が当たり前だといふように生きています。

しかし約七十年前は当たり前ではなかったのです。

「当たり前」のことが当たり前は今も本心に幸せだと改めて感じました。日本も核兵器を持つべきだ、トランプ氏が「日本も核兵器を持つべきだ」といふことをいいます。しかしそれは許してはいけない発言であり、なんとしてでも核兵器を持つべきではないと止めるべきです。約七十年前、核兵器がある原子爆弾を使って広島に起きたあの悲劇を我々若者も決して忘れてはならないと思います。

また世界には、今もなお戦争や内戦が続いている国があります。関係のない人、何も悪くないのに巻き込まれ、多くの犠牲者が出てくるかもしれないのです。これから先、一日でも早く、一人でもそういう人々を救うように、そして、笑顔になれて幸せだと思える毎日、当たり前前として続いていくように、私たちが代々の若者がこれからの日本をつくり、動かして変えていかなければならないやまなだと思えます。

当たり前前が当たり前前に

